

項目2 未来を拓く学力 「授業づくり・家庭学習」

重点目標	○主体的・協働的に課題を追究する力 ○自分に応じた課題を選択し、やり遂げる力
数値目標	①授業を楽しみながら、進んで学習することができたと言える生徒を90%以上にする。 ②ふるさと宮崎のよさや改善点について考えることができたと言える生徒を90%以上にする。 ③課題意識をもって宿題や自主学習に取り組むことができたと言える生徒を90%以上にする。

1 取り組みの状況

I 単元構成と学びのゴールの共有、振り返りの活用

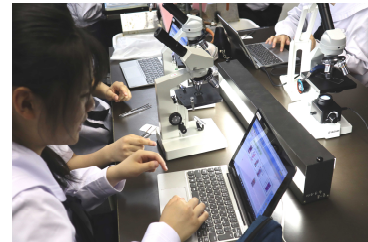
- ・単元でつきたい力とそのための学習過程を生徒と共有する時間を設け、目的意識を明確にして単元を構成した。
- ・前期指導会において、事前の指導案検討会、模擬授業、授業後の実践研究会など、全職員で実践研究を実施した。
- ・各授業の節目ごとに振り返りを実施して生徒一人一人の学びの状況を把握し、評価に活用した。また、振り返りの内容を基に、授業計画や指導方法を修正するなどした。
- ・定期テストや単元テストの結果から生徒一人一人の学習の定着度を把握し、個別指導に活かした。
- ・部活動のない日の放課後に教科会を開くなどして、同教科の教員同士による教科指導やテストに関する情報交換を進めた。



【前期指導会 授業後の研究会】

II 追究したくなるような課題設定

- ・生徒の振り返りを活かしたり資料から疑問を見つけさせたりするなど、生徒の意見を反映させながら課題を設定するようにした。
- ・授業において、生徒同士の対話や共同作業に ICT を活用し、主体的に考えていく過程を重視した。
 - 【例1】体細胞分裂のようすをタブレットで撮影し、共有した画像を並べ替えることで、その過程をオリジナルの図に表した。
 - 【例2】国際交流事業では、英語やデジタル教材(桃鉄教育版)を用いて、日本の文化や身近な地域のよさを伝えた。
- ・授業中に取り組んだ課題を定期テストの問題に反映させるよう呼びかけた。



【ICT を活用した授業】

III ふるさと宮崎のよさを再認識する授業

- ・(1年生)

宮崎地区の「食」「イベント」「伝統」をテーマに、陶芸村や黒田農園、宮崎コミュニティセンターなどへ取材活動を行った。2学期は、他市町村と比較し、越前町のよさ、そのPR方法を考える授業を計画している。
- ・(2年生)

昨年度は、宮崎地区の「食」について調査した。今年度は、越前町4地区に調査範囲を広げ、「食や伝統」を中心に、その魅力を調べている。2学期は、宮崎地区を他地区と比較し、そのよさや課題を見つけていく予定である。
- ・(3年生)

修学旅行では、「東京と越前町のちがひ」やSDGsという視点も踏まえながら、見学・体験し、学んだことや考察したことを発表した。2学期は、修学旅行で学んだことや他地域の先進的な取組などを参考に越前町の抱える課題を確認し、越前町の活性化案をグループごとに作成する活動を予定している。



【取材の様子】

IV 自ら学びを進める家庭学習

- ・帰りの会で、放課後の予定を立てる時間を確保し、どのように家庭学習を進めていくか構想を練り、生活日記に記入させた。
- ・生徒一人一人が主体的に自主学習に取り組むツールとして、昨年度より導入した学習アプリ「スタディサプリ」を用いた。生徒は、動画を視聴したり、確認問題を解いたりするなど各自で選び、授業や宿題、自主学習に取り組んだ。
- ・毎週木曜日を「自主学習デー」とし、自主学習に取り組む時間を確保した。また、自主学習のめあてと振り返りを書かせることで、課題意識を持たせ、自主学習ノートや学習アプリなど学習方法を目的によって自由に選択できるようにした。
- ・日々の学習で見つかった課題を進んで解決できるよう、定期テストの前に全校学習会(質問会)を実施した。(5月)
- ・学習委員会による全校集会の企画で、自分に合った学習方法を知る機会を設定した。(7月)

家庭でのスケジュール	
17:00	家 勉(英7P2-3,復習)
18:00	ごはん
19:00	勉(社・理7P2-3)
20:00	苦手なところや1年生の内容を中(心)に?
21:00	お風呂
22:00	ねる
学習時間	(20)分

【生活日記「家庭でのスケジュール」】

2 目標の達成状況

アンケート結果	①授業を楽しみながら、進んで学習することができた A 39 B 52 (91) C 8 D 1 (%)	評価	A
	②ふるさと宮崎のよさや改善点について考えることができた A 30 B 54 (84) C 13 D 3 (%)	評価	B
	③課題意識をもって宿題や自主学習に取り組むことができた A 42 B 48 (90) C 9 D 1 (%)	評価	A
総 括			
①・③に関して 全校でみると数値目標を達成することができた。しかし、①については2年生でCと回答した生徒が昨年度に比べて増加し、3年生ではAと回答した生徒が減少している。③については、とくに3年生で前年度に比べてよくなっているが、1年生でC・Dと回答した生徒が目立っている。課題に興味を持ち追究する姿勢が見られた一方、「分からないことをそのままにしまう」「発表をためらう」傾向も残る。 ②に関して 1年生は「現地取材」などの具体的な活動も行っており、数値目標を達成することができた。しかし、他の学年では達成することができなかった。生徒からは「ふるさと(宮崎)のことまで考えられなかった」「改善点が思いつかない」といった声があり、発信力や定着に課題がある。			
改善策			
学習に対して苦手意識や消極的な態度の生徒も含め、全ての生徒が楽しく主体的に学習に取り組むことができるよう、特に次の4つの取り組みを進めていきたい。 1. 課題設定の工夫、生徒同士の対話の充実、振り返りの活用など、本校の授業づくりの重点をより一層意識して授業改善を進めていく。 2. 発表や質問しやすい環境づくりを継続していくとともに、ICTスキルを支える「ミニ研修」を実施するなど、校内研修を充実させる。 3. どの学年においても、総合の年間計画に応じて「ふるさと学習」をさらに推進し、「ふるさと宮崎のよさ」がキーワードとなる授業展開を工夫する。 4. 学習アプリの取り組み状況を把握して指導に活かすなどして、主体的な学習を促す方法を工夫する。			

【評価基準】

A : 数値目標達成 B : 数値目標達成率75%以上 C : 数値目標達成率60%以上 D : 数値目標達成率60%未満